

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

29.6.5
第605号

法人名	株式会社 円	代表者	藤田 純平	法人・事業所の特徴	「心を込めて・利用者様の為に」という理念のもと、利用者様の新たな「生きがい・楽しみ」を見出しスタッフ皆が元気に働ける、そんな事業所です。のなか家に帰ってきたら、ほっとできる・そんな空間を大事にしています。利用者様を私達ののなか家の家族の一員に迎える事、とても大切にしています。
事業所名	小規模多機能ホームのなか家	管理者	藤田 美知代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	4人	1人	1人	1人	1人	2人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	評価制度自体の意味をうまく理解できていない。職員の評価自体の理解力を向上させる。	1.前年度より早めに取り組む事ができた。 2.皆で話し合う機会が増え、無回答が少なくなった。	1.設問の意味自体が分かりづらくどう答えたらいいか迷う 2.ミーティングに参加する機会が増え意見を出しやすくなった。 3.一人一人の能力の違いがある。	ミーティングに参加できなかった職員は自分から必ず聞きリーダーが状況把握したか再確認を行う。質問できやすい雰囲気を作り風通しの良い職場にしていく
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所を訪れる方がほっと一休みできるような環境を目指し、今できている事を今後も積み上げていく。	1.前年度同様、職員皆で事業所の環境作りを徹底する事ができた。結果、利用者の方や訪ねて来る方から明るくて気持ちのいい事業所だと喜んでもらっている。	1.植物や季節感を出すインテリアで温かい雰囲気が出ている。 2.掃除の徹底で臭くない。 3.門が無いので入りやすい。 4.建物の電光看板が目立つ。	今後も来所した方がほっと一休みして頂けるよう嫌な匂いに気をつけ近所に咲く野の花を飾ったり季節感を大事に、出来ている事の継続を行います。
C. 事業所と地域のかかわり	今後も事業所が地域にとけこんでいけるよう、民生委員や地域の方々との連携を継続していく。	1.挨拶の徹底で地域の方との関係が柔軟になった。 2.地域の消防団への入団や地域のサロンに出向く事で今まで以上に交流が図れた。	1.職員皆が積極的に地域の方に挨拶している 2.地域の消防団への入団をきっかけに地域の方とより近くなった。	1.地域と事業所がお互いに理解を深めるよう民生委員・地域の方々との連携を継続していく。 2.介護でのお困り事を気楽に相談できるような関わりを持つ。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事毎への参加継続や、地域の方々（子供達含む）が気軽に事業所に足を運ぶ等、できている事の継続。	地域の公民館長や婦人部の方達の協力で地域に出向く機会が増えている。夏休みのラジオ体操（子供達）を事業所で開催できた	1.地域の方が気軽に声をかけてくれる。 2.地域の公民館祭りや町内清掃地域に出向く事が増えた。	利用者と一緒に自宅周辺を散歩したり、行事毎に参加する事で地域との関わりを継続していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	出席者全員が意見（地域の相談事）を出しやすい雰囲気作りにつとめる。	委員の方達から遠慮なく意見が出ており、地域の行事毎や取り組み等の情報が把握でき利用者にかす事ができた。	職員全員が参加できない為、運営推進会議の内容を把握できていない人もいる。委員の方達とは多数の意見交換ができた。	運営推進会議の資料は職員全員、目を通す。家族会開催時には、運営推進会議の内容を説明する。
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練には地域の方にも参加して頂き、地域住民の方と共に協体制を取っていく。	1.前年同様、防火訓練は地域の方の協力がありました。災害時の緊急連絡網に地域住民の方、多数登録頂いた。	1.地域の消防団に入団した事で地域の方との連携が強くなった。 2.職員より近所に住む地域住民の方の協力は頼もしい。	事業所の防災計画を基に、地域の方に防火に対する取り組みを理解して頂き協力をお願いする。地域の防災訓練等へ参加していく。